

令和 5 年 3 月 7 日

足立区立本木小学校
校長 藤田 暁美 様

足立区立本木小学校
開かれた学校づくり協議会
会長 田 中 実

令和 4 年度学校関係者評価書

1 自己評価書（学校経営計画・自己評価書）全般について

コロナ禍での3年間は、児童にとって、教職員、保護者、地域にとっても戸惑いと憂鬱が交錯する日々が続き、学校生活は制限と自粛で満足な活動ができないまま、友だちの笑顔さえマスク着用で見ることもなく、明るい歌声も響くことはなかった。そんな中でも今年度は運動会、音楽会が規模を縮小しても実施出来たことは児童に大きな力と達成感を与えた1年であった。

本木東小学校との統合から10年、引き継いだ人権尊重教育校として人権意識を高める教育に努めていて、児童自らが創作した人権標語のポスターを掲示し、自己肯定感の向上と他者をも大切にする心を養い、一人一人が尊重される学校を目指しており高く評価できる。

学校評価のアンケートからは、基礎学力の定着のための丁寧な指導に関しては高い評価がなされている。意欲を引き出す授業の工夫は、児童からは評価されているものの、教員自身は今行っている授業が児童の意欲を引き出していないと感じているようだ。児童の意欲をさらに向上させる工夫を進め、個々の授業力を高め、学校の教育目標「かしこい子、思いやりのある子、たくましい子」を、そして、めざす学校像「子どもたちが輝く学校」の実現に向けて、さらに取り組んで欲しい。

2 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

「確かな学力の定着」については、児童が安心して学習に取り組める環境づくり、学習における家庭との連携に取り組み、自ら課題を見つけ解決していく学び、つまづきを見つけ学び直しを行う自力解決タイム、本木タイム、A Iドリルの活用、知的好奇心を引き出す指導ではもっと知りたいという知的好奇心を刺激し、本に親しむ習慣を身につけさせている。また、学習規律の徹底に「学習5つの約束」を守る指導をして効果を上げている。足立区学力調査による各学年の通過率は2、3、6年生では80%を上回り、4、5年生が下回るなど学年差があるものの、今の学年の学習を確実に身につけるように努めている。また、国語「書くこと」が領域別正答率で、大きく下回り、書く力を系統的に高めていく必要があるようだ。

「思いやりのある子の育成」については、先に述べた人権尊重教育校として人権教育を積極的に行い、自己肯定感の向上、他者を思いやるやさしい心を育て、児童相互の関係や教職員に対する態度の向上につながり、いじめ対策にも改善が見られる。また、小山正見先生の指導で俳句創作に取り組み、感性や語彙量を磨き、豊かな心を育てている。さらに児童自身が学校生活をよりよくしていると実感できる取組として、本木・本気プロジェクトを今年度から実践し、児童自らが活動を行っている。これらすべては真に児童の健全な育成を目指しての取組であることからすぐに結果を求めず長期的な観点から見守って欲しい。

「たくましい子の育成」については、都全体でも子どもたちの体力、運動能力は下降傾向が見られ、コロナ禍での外遊びの減少から、自発的な運動の時間が減り体を動かす機会が少なくなっている。集中して勉強をする、運動をする、おなかがすく、ごはんを食べる、ぐっすり眠る。朝早くおきる、朝食をしっかり食べる、体

も頭もめざめるといい生活習慣の連鎖を作り出し、学校生活が充実したものになるように体力づくり保健指導・食事指導、生活指導の徹底をさらに続けて欲しい。

3 その他

コロナ禍での自粛生活と社会情勢の大きな変化から、学校生活は平穏な日常から戸惑いの続く日々となった。保護者は不安を抱え、その苛立ちを教職員に向け、地域の目は学校から離れていった。これから社会に出て活躍していく児童にとって大きな不安を抱える現代に、自尊心自信困難に立ち向かう意欲、挫折を乗り越える力など夢や希望をもって力強く生き抜いていく人づくりこそが必要となる。教育の成果はすぐに実現できるものではないが、学校・保護者・地域が連携して児童の体力低下にともなう3つの間「時間・空間・仲間」を改善できるよう努めていきたい、今年度は通常の生活に戻る光が見えてきた。学校行事を制限があるものの開催でき、児童が輝ける場ができた。達成感に満ち溢れた姿を見られることは私たちにとっても大きな喜びである。すべての児童がこの学校でよかったこの地域でよかったこの家族のもとで育ってよかったと思えるようになってくれたらと思う。